

- (3) 第15回〔9月1日開催〕 参加61名
 ・講師 佐藤 守 (デザイン会社AM企画 社長)
 ・テーマ 『絵本のできるまで』
- (4) 第16回〔10月6日開催〕
 ・講師 森 則夫 (福島県立医科大学 講師)
 ・テーマ 『価値観の相違とストレス』
- (5) 第17回〔12月1日開催〕 参加34名
 ・講師 星野 珙二 (福島大学経済学部 教授)
 ・テーマ 『いま、食べごろの・パフォーマンス』
- (6) 第18回〔2月2日開催〕 参加30名
 ・講師 片平 幸三 (福島児童文学研究会 会長)
 ・テーマ 『児童文学あれこれ』
- (7) 第19回〔3月2日開催〕 参加35名
 ・講師 大野 裕明 (星の村天文台〔滝根町〕 台長)
 ・テーマ 『日食紀行宇宙観』

第2節 資料の収集・整理

県民の資料に対する要求も年々多様化・専門化の傾向が顕著になってきているため、それぞれの分野でよりきめの細かな収集に努めた。

1 図書館資料の収集

(1) 一般資料の収集

昨年度に引き続き、人文科学・社会科学・自然科学それぞれの部門で参考図書の実践に努めた。また、各部門とも専門分野における基本資料の整備に努めた。

(2) 郷土資料の収集

郷土資料については様々な情報網を駆使し、悉皆的収集に努め、限定、自費出版、記念誌等の地域資料の発掘収集や、古書店を通じてかなり以前の出版物の遡及的収集も図った。また、市町村史、県及び市町村発行の行政資料についても、引き続き重点的に収集を図った。

(3) 視聴覚資料の収集

県広報聴課から、県広報番組のビデオテープ、カセットテープの移管があった。
 また、福島県が舞台となったLDや、県出身音楽家のCDの収集等にも努めた。

(4) 児童図書・研究図書の収集

児童及び児童図書を研究する利用者のために、児童書では、子どもたちに読んでほしいと願い選んだ図書・課題図書・各種受賞図書・教科書に取り上げられている作品の原書及び郷土出身作家・画家の図書を中心に収集した。

研究資料については、児童文学や絵本についての作家論・作品論を中心に収集した。復刻書、雑誌も昨年に引き続き収集した。

(5) 逐次刊行物の収集と整備

利用者の多様な要望に対応すべく、各分野の定評ある雑誌を収集すると共に、今年度も近代文学関係雑誌および、近代婦人関係雑誌の復刻版を収集し、資料の充実を図った。
 新聞については、地元紙、中央紙の収集保存に努めると共に、今年度から新たに隣県紙「下野新聞」「茨城新聞」

「新潟日報」「山形新聞」を収集し利用者に提供した。
 外国紙についても、「人民日報」「New York Times」の収集を始めた。

〔表1〕平成6年度逐次刊行物受入整理状況 (単位:種)

区分	購入	寄贈	計
新聞	22	59	81
雑誌	210	884	1,094
官報等	3	-	3
計	235	943	1,178

〔表2〕平成6年度資料の受入状況 (単位:冊)

区分	購入	寄贈・他	計
一般資料	5,824	3,588	9,412
郷土・行政資料	930	2,735	3,665
児童図書	931	199	1,130
児童図書研究室資料	1,071	830	1,901
館外用図書	3,490	1,521	5,011
計	12,246	8,873	21,119

2 蔵書目録の発行

「増加図書著者・書名索引」として平成6年度に収集した図書の目録を発行し、関係機関に配布した。

第3節 館内奉仕

直接来館あるいは電話や文書による県民の資料・情報要求は着実に増加している。

内容的にも、ここ数年来の多様化、専門化の傾向はますます顕著になっているので、資料の充実とともに利用環境の整備にも努力した。

1 調査相談

当館に情報や情報源の調査を求める利用者は、本年度も持続して増加した。これらの要求に可能な限り応えるために、参考資料の整備はもとより各専門機関との連携、レファレンスツールの充実、担当職員の情報運用力の向上などサービス体制の強化に努めた。

その結果は総件数12,272件で、前年度比12.1%増であった。

〔表3〕記録された参考質問の分析 (単位:件)

区分	郷土資料	一般			逐次刊行物	小計	児童	計
		人文	社会	自然				
口頭	1,863	1,519	1,858	1,476	829	7,545	512	8,057
電話	1,275	1,231	626	409	372	3,913	105	4,018
文書	130	8	29	22	6	195	2	197
計	3,268	2,758	2,513	1,907	1,207	3,268	619	12,272